

<京町家の特徴>

始めに、町家えほんを用いて昔の京都の家の特徴を説明していただきました。京町家はその名前とおり、京都の町に建てられた家のことです。入り口から奥まで土間が続き、いくつかの部屋が並んでおり、一番奥には庭があります。表通りに面した格子は、「酒屋格子」、「糸屋格子」、「米屋格子」「炭屋格子」などの種類があり、格子を見ればその家が何屋かわかるようになっていました。

京町家は、木や紙、土、いぐさなどの自然素材で作られているため、傷みやすく変色しやすいですが、昔の人は、そのような家を大事に使い、管理していました。作法は、家を大事にする心から、自然に身に付けられたことなのです。子どもたちには、作法を学ぶことで、他の人の家に訪れた時に、招待してくれた人が心を込めて大事にしている家を、一緒に大事にするやさしい心を持ってほしいですね。

